

考古学や仏教美術史、教育学の分野ごとの研究報告などが行われた平泉学フォーラム



令和3年度 第2回平泉学フォーラム

共同研究の成果発信

平泉学
フォーラム
オンラインで講演

第2回平泉学フォーラム（県、県教委、岩手大、同大平泉文化研究センターなど主催）は6日、オンラインで開かれた。専門家や学芸員らが平泉に関わる考古学や仏教美術などの研究・調査結果を一般に発信した。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から無観客で開催。講演や研究発表などの模様は、平泉町の平泉ホテル武蔵坊から動画投稿サイト「ユーチューブ」で配信された。

開会行事で岩手大の小川智学長のあいさつなどが行われた後、青山学院大名誉教授の浅井和春さんが「奥州藤原氏の薬師信仰と赤沢七仏薬師像」と題して基調講演した。演題と同じ特別

企画展が同町の県立平泉世界遺産ガイダンスセンターで開かれているのに合わせ、浅井さんは「平安時代に天台宗を開いた最澄による薬師信仰が基になつて平泉にも伝わった」と指摘。その後、奥州藤原氏にゆかりのある比叡藤原氏の寺院として紫波町内にかつて存在したと推測される蓮華寺に伝わり、現存する7体の薬師像は貴重な価値があるとした。

共同研究報告では、考古学や日本史、仏教美術史、平泉の教育の各分野で行われた五つの研究テーマについて7人が報告。「日本の学校教育における世界遺産の教材化についての研究」で県教委の中村孝さんらは、21年10月に県立平館高校2年生を対象に実施した柳の御所遺跡などを含む、平泉授業の成果について「ICT（情報通信技術）を活用して生徒が平泉を興味深く学んでくれた。これ

を広めるために、多数のコンテンツの開発が必要と感じた」と成果や課題を挙げた。

今年度の調査報告では、平泉町教委が観自在王院跡、一関市教委が骨寺村荘

を、奥州市教委が長者ケ原廃寺跡と白鳥館遺跡の発掘調査結果について説明した。

同フォーラムの模様はユーチューブで引き続き視聴できる。